

第8章

さまざまな援助



P.101~の
援助の記録も
見てね!

ベルマーク運動は、まず山間部や離島にあるへき地学校の教育設備の改善を目的にスタートしました。しかし半世紀を超え、現在は設備面だけでなく、一輪車講習会や理科実験教室などのソフト面でもへき地の子どもたちを支援しています。さらに援助は、へき地の学校だけでなく、養護学校、盲学校、聾学校などの特別支援学校、病院内学級、地震や豪雨で被災した学校にも広がっています。また国内だけでなく、開発途上国や日本人学校など、海外の子どもたちにも援助を続けています。



電子黒板を使って算数分数の授業もわかりやすく

へき地学校援助

設備品の援助

へき地指定を受けている小学校、中学校の中から、各都道府県の教育委員会に援助先を推薦してもらい、毎年全国の100校ほどに30万円相当を援助しています。設備品は、学校が希望する品を財団が購入して贈ります。



初心者もスムーズに前進できるように、一輪車講習会

ソフト援助

一輪車講習会、理科実験教室があります。講習会や教室は、専門の指導者やコーチを学校に派遣します。

特別支援学校援助

養護学校には、毎年20校ほどに学校が希望する設備品を贈ります。盲学校、聾学校には全国校長会と相談のうえ、教材提示装置などの統一した設備品を援助する学校と決めて贈ります。



水が凍る瞬間を観察、理科実験教室

病院内学級援助

入院して病気と闘っている子どもたちのために、必要とする教材設備品を贈ります。

災害被災校への援助

地震や大雨などで大きな被害が出た場合は、状況を調査した上で被災した学校などに希望する設備品を贈ります。

友愛援助

ベルマーク運動に参加の学校や団体が、ベルマーク預金から直接寄付できる援助事業。阪神淡路大震災を機に始めました。事業内容は公募して、財団が実施団体と事業内容を決定します。NPOなどを介した海外への支援もあります。1年間、ベルマーク預金からの寄付を呼びかけ、その募金額に応じて支援します。援助の実施は翌年度です。

2019年度は、財団の東日本大震災支援のほか、ジョイセフのアフガニスタンの子どもたちの保健教育活動や、シャンティ国際ボランティア会のミャンマー難民キャンプでの図書館活動など10事業を支援しました。

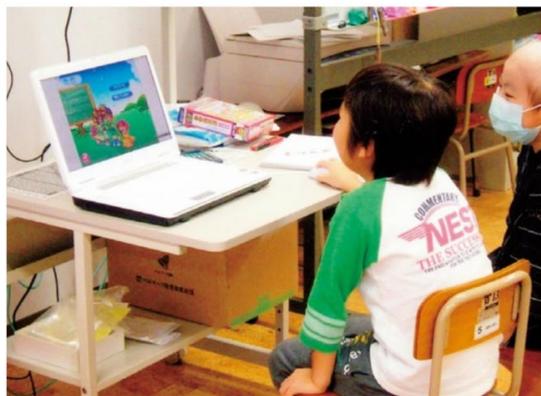
緊急友愛援助

東日本大震災の復興支援のように、緊急に支援する必要がある場合に財団が独自に呼びかけます。今まで、新潟中越地震や広島土砂災害、熊本地震、西日本豪雨、中国・四川大地震やミャンマー大水害などで実施しました。

2019年度は台風・大雨被害に対する支援を呼びかけました。

海外日本人学校援助

海外にある小規模日本人学校や補習学校を文部科学省の推薦で選び、希望する教材などを贈ります。



病院でもパソコンを使って勉強できるように



被災校援助で届いた書棚の前で、笑顔を見せる子どもたち



「ベルマークからの贈りもの」は、海外の子どもたちにも



東日本大震災被災校へノートや鉛筆を届けた